

## 令和6年度第1回佐賀市環境審議会 議事録

### ◆ 開催日時

令和6年5月30日（木） 14時00分～16時00分

### ◆ 開催場所

佐賀市役所 本庁2階 庁議室

### ◆ 出席委員（敬称略）

岡島俊哉（会長）、関清彦、小城原直、草場真智子、松尾真理子、藤井律子、有森明子、高橋朋子、中村佳代、大石寛貴、中原正登、熊畑瑞枝、多々良たまえ

### ◆ 欠席委員（敬称略）

大渡啓介（副会長）、田中宗浩、松本考司、島崎健

### ◆ 事務局

坂井市長、宮崎環境部長、環境政策課（梶山副部長、福本副課長、香田係長、石川室長、西岡主査、小柳主任、前田主任）、循環型社会推進課（馬場副部長、羽立参事、王丸副課長、三好係長、四元主査）、環境保全課（大家課長、石井参事）、衛生センター（熊添所長、吉原副所長）、施設機能向上推進室（田中室長）

### ◆ 傍聴者

1名（報道関係者を含む。）

### ◆ 議事要旨

#### 1 開会

#### 2 市長あいさつ

##### ○市長

令和6年度第1回佐賀市環境審議会の開催に際し、委員の皆様の日頃からのご協力と本日のご出席に感謝申し上げます。

近年は猛暑や大雨など、気候変動の時代に突入している。本市は、第2次佐賀市環境基本計画の策定から10年の節目を迎えようとしている。その間にも様々な変化が起こり、市内のクリークでは特定外来種が繁茂するといった課題や、海洋プラスチック問題、気候変動、大雨の影響も深刻である。

また、世界的にカーボンニュートラルの動きが加速しており、佐賀市においても2050年

までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目標とする「ゼロカーボンシティさがし」を表明し、施策を行っている。こうした様々な変化を捉え、これからの10年の計画として、第3次佐賀市環境基本計画を策定したい。水と緑にあふれる自然豊かな佐賀市のよさを将来の子どもたちに引き継いでいけるよう、安全で快適な佐賀市を目指したいと考えている。

審議会での議論を通じて、第3次の環境基本計画がより良いものになることを期待している。皆様にはご多忙の中短期間の審議となるが、忌憚のないご意見をいただき、それぞれの知見や経験からのご助言を賜りたい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3 諮問

#### ○市長

第3次佐賀市環境基本計画について諮問する。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 4 議事

第3次佐賀市環境基本計画について（中間整理案）

《説明》

○第3次佐賀市環境基本計画（中間整理案）に関する説明（事務局）

**資料1** **資料1-参考資料**

《意見交換等》

#### ○会長

ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

#### 【1 市が重点的に取り組むべき環境要素】

#### ○委員

アンケートの結果、「環境を守る市民の意識の高さ」というのが、一番満足度が低く重要度が高いという結果になっている。つまり、もっと市民みんなで頑張ろうという意識のあらわれだと考えている。アンケート回収率を見ると32.7パーセントで、100人中32名の人は環境への意識が比較的高いものの、意識の高い人から見ると、周囲の人は環境に関心が薄い人が多いと感じているのではないか。例えば、オオキンケイギクという黄色い花は特定外来種であるが、それを知らない人が多い。そういったことが問題だと捉える人もいるが、関心がない人も結構いると思われる。

#### ○委員

まずは環境教育が重要である。幼児教育、小中高、大学までは環境教育がなされている

が、それ以降の大人の教育が漏れている。ボランティアで道端の清掃等をしているが、まだたばこや空き缶のポイ捨てがある。大人への環境教育を市のほうでも検討頂きたい。

○委員

自治会の活動の中で、環境に関する簡単なイベントを開催してはどうか。自治会には地域に根差した方が多く、地域を大切に思われているので、そこから意識を底上げしていくとよい。また、昔はクリークがきれいだったという声が多い。やはり佐賀はクリークのまちというイメージがあるので、クリークをきれいにしようという目標を掲げるのがよい。アンケートの中で、家族で環境についてあまり話さないという内容があったので、子どもたちの教育に親を巻き込んでいくような戦略を取っていただきたい。

○委員

自治会を活用するという意見が出たが、オオキンケイギク等の特定外来種の対応を自治会などでできないか。

○委員

自治会での対応については、少子高齢化で人手不足の問題があり、地域も困っている。地域の清掃も自治会で行ったり、外注に出したりして対応している。河川清掃なども一生懸命にやっているが、水の流れが悪く、外来種が繁茂しているものすごく大変である。いろいろなイベントと河川清掃等を組み合わせてしてもらいたい。地元企業にも応援してもらっているが、現実は厳しく、自治会でも奮闘している。行政と地域で連携して取り組んでいくような形ができれば、少しは環境が良くなるのではないか。

○会長

これまで出た意見によると、佐賀市の環境要素として水が挙げられる。

トンボ飛び交うまちを実現するときに、やっぱり水は欠かせない。クリークのきれいさ、水辺・河川のきれいさといった要素を、第3次環境基本計画に取り入れてほしい。また、自然景観や田園の美しさを守り、自然や動植物との触れ合いの場の創出や、まちの緑化にもつなげてもらいたい。また、海のきれいさや、海洋プラスチック問題への対応として、環境保全活動へ参加する人たちを増やすことも必要である。

水という環境要素は、トンボというキーワードにもマッチしている。地域や自治会、学校などで連携して、人々の行動を変えていくことがポイントになると考えている。

【2 市民が取り組むべき環境に配慮した取組】

○委員

前回、佐賀市で環境に関する広報をもっとしてほしいという意見を出した際、市から佐賀

市スーパーアプリを活用していきたいという回答をもらったが、どうなっているか。アプリを活用して、環境に優しい行動の具体例を配信や、ゼロカーボンシティのサイトへの誘導、外来種の情報提供などを通して市民目線のお知らせを増やしてほしい。また、大人も子どもも参加できる環境イベントを増やしてほしい。

#### ○事務局

佐賀市スーパーアプリとの連携についてはもちろん議論している。しかし、財源に限りがある中、かなり費用がかかるというのが実情である。また、歩いた距離に応じてCO<sub>2</sub>削減度を見える化するというコンセプトの「SPOBY（スポビー）」というアプリがあるが、こちらについてもかなり費用がかかる。年間で2～300万円程度。その中で、佐賀県の「SAGATOCO（サガトコ）」というアプリの中に、CO<sub>2</sub>排出量を見える化する機能があるので、まずはそちらを広めていくべきと考えている。

また、「行動変容」というのが、佐賀市だけではなく国を挙げての課題である。環境省でデコ活等の取組を行っているが、市としても脱炭素に向かう市民にインセンティブを与えるような取組について今後研究する必要がある。

佐賀市では脱炭素に向けたキャラクターを作っており、現在名前の募集を行っている。このような取組を通して環境に対する意識を上げていくことが重要と考える。

#### ○委員

例えば、さがんメール等を活用して、テキストだけでもリンクを貼って環境に関する情報を周知してほしい。費用を掛けなくてもできることがあると思うのでお願いしたい。

#### ○委員

ごみカレンダーの表紙に、一年の重点目標を書いてはどうか。全戸配布なので、「今年は河川をきれいにしましょう」などキャッチフレーズを載せれば市民の意識が変わるのでは。また、子どもへの環境教育はなされているが、大人の教育が継続して行われていない。大人の意識を変えることが重要だと考える。

#### ○会長

大人の環境意識を高め、環境に取り組み続ける仕組みをつくる必要があると考える。

#### ○委員

アプリ等のITと、回覧板や公民館の掲示等従来からあるものの両面から周知して行くことが必要と考える。また、子どもはごみを捨てると怒られるが、大人は怒られない。大人の人には注意しづらいと感じる。

### 【3 事業者による環境保全の取組拡大に向けて】

#### ○会長

事業者の場合は、経営者の意識が変わり、その理念が浸透すれば、企業全体として積極的に環境に取り組んでもらえ、企業としての生産性も上がると考えている。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

#### ○委員

地域貢献企業に協力してもらっている。トップダウンでやっていただきたい。

#### ○委員

トップも大事だが、一人ひとりの環境への意識も重要だと考える。参考資料 P7 のアンケート結果によると、「企業や製品などのイメージアップや新しいビジネスチャンスに期待できるから」というところの回答が少ないのが気になる。社会的責任だけでなく、環境への取組をビジネスチャンスとして企業全体で捉えて行動するような社会になってほしい。環境問題に積極的に取り組む企業が今後伸びていくと考えている。

#### ○委員

佐賀市はトンボをキーワードに掲げているが、P14 の年代別の円グラフでは、若い世代では佐賀とトンボの関係性にピンとこない人も多いのが現状だと考える。トンボは水辺で育つので、トンボがたくさんいるのは水辺環境のバロメーターになる。滋賀県では、県内の企業が連携して、企業ごとに「推しのトンボ」を定めてトンボの保全活動を行っている。

#### ○委員

福岡市では、企業がスポンサーとなって、花壇の維持管理に協力している事例がある。花壇には協賛している企業名が入る。佐賀市でも、企業を巻き込んでまちなかの花やみどりを美しくできるとよい。佐賀にはトンボ、野鳥や珍しい蝶など、推せるものがたくさんある。市民が楽しめる、参加したくなるような取組を行ってほしい。

#### ○委員

事業者の取組に関しては、行政から優先的に取り組むべき内容をキャンペーンとして提示するのがよい。具体的などころを出してあげれば企業の方たちはそれを実践できる。昔はやっていなかったが、クールビズやエアコンの温度調整は現在実践している企業も多い。取り組む項目を絞って打ち出してあげることが重要だと考える。

#### ○委員

今からの時代、環境を大事にしなければ企業も生き残れない。環境への取組を行うことで

社会的に評価され、学生からの就職の問合せも増えたと聞く。企業にとっても環境に取り組むことはメリットがあるということを周知する必要がある。

#### 【4 第3次計画における環境将来像の考え方】

##### ○委員

P14のアンケート結果によると、若い世代と40代以上の世代ではトンボへの認識にギャップがある。平成元年ごろは、トンボ王国づくりの取組が盛り上がっていて、「トンボ教室」も効果があったと考えている。トンボが市民の目に触れる機会というのが今よりも圧倒的に多かった。しかし、近年トンボが減少し、「トンボ教室」も「さかの生きものさがし」という名称に変わってしまった。トンボがかろうじて生き残っているのが神野公園。一時、神野公園のトンボ池を駐車場にする案があったが、トンボ池を残すことになり安堵している。環境の質がいいほどトンボの多様性、個体数が多い。よって、トンボを佐賀の環境のシンボルに掲げることには賛成である。

##### ○会長

トンボが示すところは豊かな環境の象徴ではないか。教育や様々な取組で市民への意識醸成をはかることが必要だと感じる。

##### ○委員

ずっと佐賀市で生まれ育っている自分でも、なぜ佐賀市がトンボをキーワードに掲げているのか知らない。もっと市民への周知が必要。今「推し活」というのがとても流行っているので、環境推し活キャンペーンみたいなことをしてはどうか。例えば、事業所部門と一般家庭部門で分かれて、環境に配慮した行動をするとポイントが付与される取組など。

##### ○委員

何年も前に「トンボ教室」に参加したが非常に良い経験だった。トンボが飛んでいなくても、「トンボ教室」という名称は続けていただきたい。トンボが多く誕生し、羽化していくためには水辺環境がきれいじゃないといけない。

## 5 報告事項

佐賀市におけるプラスチック分別リサイクルについて（中間報告）

《説明》

○佐賀市におけるプラスチック分別リサイクルについて（中間報告）に関する説明

（事務局） 資料2

《意見交換等》

○委員

プラスチックをごみステーションで回収するのは非常に難しい。回収できない具体例を、市民にわかりやすく文字やイラスト付きで大きく表示することで、判断しやすくなり、異物混入率を下げる可以考虑。

また、回収の拠点となるごみ置き場は、民間や個人のところをお願いするのは難しい。よって、公共機関である公民館や市役所の支所などで場所を探していただきたい。

○委員

ごみ回収の拠点としては、公民館にはあまり行かないので、例えばゆめタウンなどスーパーで拠点回収できれば買い物のついでなどで活用しやすい。ゆめタウンにも、ペットボトル等の回収機械があり、ポイントが付与されるので、結構並んで活用している方がいる。

○委員

ああいった回収機械は、潰したペットボトル等は回収できない。潰したものでも回収できるような良い方法があるといい。

○委員

できるだけ効率よくたくさん回収できたほうがよい。モデル実証の場所によって回収量が異なるがなぜか。

○事務局

北川副公民館については、対象世帯が76世帯（北川副町女性会）とあるが、自治会全体に呼びかけたのではなく、女性の会の役員である一部の方を対象として実施したため、意識の高い方が多く、回収量が多かった傾向がある。また、公民館の開館時間が22時までと、夜までごみを持ってこられる利便性の高さも回収量に影響したと考えられる。

○会長

回収場所は、スーパーなども検討してはどうかという意見が出た。曜日や回収時間が短いといった問題も解決でき、利便性も高まる気はするがいかがだろうか。

また、ポイント付与等のインセンティブがあると楽しみながら分別協力でき、回収量も増えるのではないかと考える。しかし、インセンティブというのは報酬なので、検討が必要である。

○委員

イオンでもペットボトルや新聞・雑誌等の回収コーナーが設けられている。ポイントが付くので、それがインセンティブになり、本当に大量に持ち込まれる。ただ、ペットボトル

は潰すと機械に入らないから潰さない方がよい。とにかく市民がやりたくなるような仕掛けを考えてみてはどうか。例えば、階段を歩いてのぼると何キロカロリー一分だとわかれば、階段を活用しようと思う。自然に行動変容につながる取組を考えていただきたい。

○会長

それでは、ほかに意見がないようであれば、本日の議事は終了としたい。

6 その他

なし